■鎌倉芳太郎　　沖縄の文化財を調査記録，沖縄戦の打撃を受けた沖縄文化の保存と伝承に貢献。紅型を継承発展させて人間国宝。
かまくらよしたろう
子規句歌革新1898＝　　瀬戸内海に面する香川県三木郡氷上村で生まれる。
日露戦争終・1905＝ 7歳：
韓国反日暴動1907＝ 9歳：
明治天皇没・1912＝14歳：香川師範学校に入学，理系に優れる一方，古典を愛読，白文も読みこなせるようになり，新人教師として赴任してきた，後に玉川学園を創立する小原国芳から英語を学ぶなど，リベラルで幅広い教養を身につけ，
第一次大戦始1914＝16歳：京都で開催された文展を見に行って，_水上泰生の「琉球の花」という印象的な作品に出会う。
民本主義・・1916＝18歳：
本格政党内閣1918＝20歳：早く自活できるようにと，_東京美術学校(以後美校)図画師範科に進学。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝21歳：_東洋美術史の講義に影響を受け，スケッチが確かな腕前になる間，建築家で東京帝国大学教授伊東忠太に指導を受け，美術学校の先輩と知った水上の自宅を訪ねて技法を教わって，沖縄行きを勧められ，
原敬首相暗殺1921＝23歳：卒業。遠隔地のため諸手当が加算されるという魅力もあって，_沖縄県の県女子師範学校・県立第一高等女学校の図画教師に赴任，輝く太陽と海に強烈な印象を受け，首里城近くの，王家を始祖とするも未亡人ツルが苦労して子育てしている座間味家に下宿，一流の琉球文化に触れ，支配階級の首里言葉を学び，首里城にも入れるという好運も得，近所を歩き回るうち，王国時代からの芸術や文化に魅力を感じ，それらが，琉球併合施策のもと，傷むままに放置されていることに心を痛めるも，なお東京に戻ろうと画策するが，
水平社結成・1922＝24歳：_{沖縄タイムス}に連載された「琉球画人伝」に衝撃を受け，それを書いた主筆で多彩な顔を持つ末吉麦門冬の家を訪ねると，王国最後の絵師長嶺華国をを皮切りに，次々と人を紹介，文献に知識も伝授してくれて濃密な日々が始まり，そのなかの一人天才的画家自了の研究に没頭するうち，
関東大震災・1923＝25歳：_入学試験官として，八重山の宮古島と石垣島へ出張命令。王国の歴史を考えさせられ，後に調査や撮影に協力してくれる多くの人物にも出会ったところで，任期を追え美校に戻り，関東大震災に遭遇，
護憲三派圧勝1924＝26歳：*伊東忠太に勧められ，啓明会から補助金で「琉球芸術調査」に乗り出すことになり，準備のかたわら，{沖縄タイムス}に「八重山芸術の世界的価値」を連載するなどするうち，内務省が沖縄県社を創建すべく，3日後には，首里城正殿を取り壊わすとの新聞記事を見て驚愕，滞在していた茗荷谷の沖縄学生寮{明正塾}から本郷の帝国大学まで走って，伊東に訴え，間一髪で取壊しは回避。補助金の3分の1でプロ用カメラを購入，美校の写真科教授森芳太郎のもとを訪れ指導を仰ぎ，わずか3日で修得して驚かせ，美校の助手として沖縄入り，ツルにも再会，伊東が合流して夢のような世界も，恩師麦門冬が急逝し悲痛。請われて県立師範学校の教壇にも立つと，教え子の，戦後，本土復帰に貢献した屋良朝苗が白紙答案事件を起こし謝罪させる
治安維持法・1925＝27歳：_沖縄本島を中心に調査をし，三千点以上の資料を蒐集して帰京すると，美校校長正木直彦の取り計らいで，啓明会主催の{琉球芸術展覧会}が開催され，それらを展示，錚々たるメンバーによる講演会も行われる。この間，伊東は，正殿を県社の拝殿とすることで内務省の面目も保つウルトラCで解決し史跡にもなる。
円本時代始・1926＝28歳：_八重山ほか離島，伊東の命による琉球固有の宗教と芸術等を調査すべく，第二次「琉球芸術調査」に入り，
金融恐慌・・1927＝29歳：_台湾にまで足を延ばして，800kmあまりの調査を終え大量の史料を携えて帰京，
共産党事件・1928＝30歳：紅型を中心に琉球ブームが起こり，正殿の修理工事が着工，座間味家が炎上し，一家は東京に移住，
世界恐慌・・1929＝31歳：伊東の肝煎で正殿は国宝になり，平凡社{世界美術全集}に，琉球芸術伊東の総論に続けて各論を執筆，
海軍軍縮条約1930＝32歳：共著で「東洋美術史」を出版した美校助教授田辺孝次の勧めで，画家山内静江と結婚し田端に居住。
満州事変・・1931＝33歳：長男秀雄が誕生。妻の支えで研究に専念できるようになるが，
この間，正木校長が退官して美校は居づらくなり，修理工事の完了した正殿は，再現には程遠いものであったが，沼袋に新居を建て，父と育ててくれた叔母も引き取って暮らし始め，苦しい生計の足しにと美校の日本画科教授結城素明から調査費を貰い，伊豆長八について研究を始め，長男秀雄の通う小学校の先生に偶然座間味家の娘がいると知り，荻窪の座間味家を訪ねてツルと再会，以後度々訪問。伊東の尽力で国宝が多く追加されたのを機に，首里城北殿に，沖縄初の博物館が開館している。
日中戦争始・1937＝39歳：_インドネシア等東南アジア方面の遺物との関係を探るべく，前年来，陶磁器を中心に発掘調査し「南海古陶瓷」をまとめる。それまで16年余，南西諸島をくまなく歩き，芸術，文化，歴史，民俗，宗教，言語など全てを観察・記録，膨大な資料をもたらし，まさに"琉球文化全般の最高のフィールドワーカー"とあった。
日米開戦・・1941＝43歳：
結城素明名で「伊豆長八」が刊行。美校助教授になるも，アメリカから本土攻撃，画材は配給制となり，
創価学会検挙1943＝45歳：学徒出陣も始まるなど，学校業務に追われて研究どころではなく，琉球ブームも過去のものに，
年金+総武装 1944＝46歳：_文部省による突然の美校改革に，大半の教師陣とともに抵抗もせず退官。米軍による大空襲で那覇が灰燼に帰す悲痛のなか，東京沼袋の自宅に防空壕を作って生活，写真乾板も持ち込んでいたため，
敗戦・・・・1945＝47歳：_東京大空襲で自宅が焼失するも，守られた。沖縄には，ついに米軍が上陸，島民の多くが悲惨な最期，首里城も廃墟になり，敗戦とともに，米軍の占領下に置かれる。バラックの自宅を建てるも，父が衰弱死，
新憲法公布・1946＝48歳：納骨のため一時帰郷。東京荻窪に戻っていた座間味家は，3年前に設立さた{沖縄文化協会}に自宅を提供，
三大事件・・1949＝51歳：_創刊された美術雑誌{スケッチ}に，自らを鼓舞するようなエッセイ「若き世代と芸術」を寄稿し，美校に残しておいた紅型型紙やフィールドノートが無事だったことから，改めて紅型研究を開始，
朝鮮戦争始・1950＝52歳：紅型型紙を保管していることが知られ，美校時代の弟子名渡山愛順らが{琉球紅型研究会}を発足，
独立回復・・1951＝53歳：
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝54歳：
TV放送始・・1953＝55歳：{琉球紅型技術保存会}が結成され，_来訪した沖縄の染織家たちに，戦前に自らが学んだ技法を伝授，
55年体制始・1955＝57歳：
国連加盟・・1956＝58歳：恩人ツルが死去した翌年，琉球政府主席の希望に応じ，名渡山を通じて_蒐集した紅型型紙を沖縄に返還，
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝60歳：_専門家向けに，手彩色の図案見本帳のような「琉球紅型」を制作，ブリュッセル万博に出品され反響，
安保闘争・・1960＝62歳：新潟大学教育学部高田分校の非常勤講師となって，以後18年間，集中講義し「越後系型染」も刊行，
全国総合計画1962＝64歳：_高価な美麗本になった「琉球紅型」を刊行すると，美校以来の仲の杉山寧の妻から，実際に着物を創ってみたらどうかと言われたのを機に，自ら「型絵染」の創作にとりかかり始め，日本伝統工芸展に出品し入選するも本土で評価されなかったが，紅型や型紙について膨大な研究書を著して，紅型研究の第一人者になり，
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝70歳：_本土復帰促進すべく，琉球・沖縄の歴史文化を紹介する展覧会が各地で開かれるのと呼応するように，新たな世界を開いてようやく受賞。サントリー美術館{沖縄の染織展}カタログに「琉球工芸」について寄稿，
大阪万博・・1970＝72歳：
ﾄﾞﾙｼｮｯｸ・・ 1971＝73歳：4年前に中城御殿の敷地に建てられ，文化庁の全国巡回{日本の古美術展}が，国宝などが輸出する形で開催され活況だった*琉球政府博物館とサントリー美術館の共催で，二回目の{日本の古美術展}が開催され，講演を依頼される，沖縄戦の悲惨さや紅型型紙を私物化しているなどの中傷もあって躊躇するも，行くことこそ義務と，35年ぶりに訪沖。大歓迎を受け，講演会場では屋良主席とも感動の再会，ここで，ガラス乾板も保存してきたことを明かして衝撃，岩波映画製作所で密着プリント，
日中国交回復1972＝74歳：_沖縄返還に合わせ，写真展「50年前の沖縄 － 写真でみる失われた文化財」が，琉球政府立博物館，続いてサントリー美術館で開催される。展覧会に先立ち，{沖縄タイムス}紙上に「五十年前の風物詩」を連載。沖縄での展覧会の入場者は18万6000人にのぼり，琉球王国文化に再脚光，
石油ショック1973＝75歳：_これを機に，研究を集大成した「沖縄文化の遺宝」が岩波書店の手で編集され始めた直後には，重要無形文化財「型絵染」保持者(人間国宝)に認定され，以後，メディアの取材，展覧会への出品など多忙をきわめるなか，高齢で満身創痍になりながらも，弱音を吐かず，「沖縄文化の遺宝」の原稿執筆に集中，
ｸｱﾗﾝﾌﾟｰﾙ事件1975＝77歳：沖縄海洋博で写真が多数公開，開催中に石垣島を訪れ「八重山画稿」を返還，麦門冬の娘とも感動の再会。
革新大敗北・1979＝81歳：_この年まで，続けたが，40余年前の「伊豆長八」復刻にあたり，その著者とされ，NHK番組{お達者ですか}の「鎌倉芳太郎 沖縄の心を語る」に出演するも，身体の衰弱は著しく，
中曽根内閣・1982＝84歳：_代表作となる大著「沖縄文化の遺宝」が出版されてまもなく，ついに力尽きたように，
ﾃﾞｨｽﾞﾆｰﾗﾝﾄﾞ 1983＝85歳：東京都中野区の自宅において，急性心不全で_没した。首里城が復元されるのは，その9年後である。
没後，鎌倉の記録資料は，遺族により沖縄県立芸術大学に寄贈されて保存，2005年には，鎌倉が沖縄研究で遺した写真や調査記録などが国の重要文化財に指定されたが，それら無くして首里城再建は困難だった。

与那原恵「首里城への坂道 鎌倉芳太郎と近代沖縄の群像」。NHK番組{知恵泉}の「首里城・紅型 沖縄への愛 鎌倉芳太郎」で追補，